全国高等学校野球選手権大会の佐賀県予選成績に及ぼす影響
：私立の高等学校の予選成績は公立校より優れているのか？

山津 幸司（佐賀大学教育学部）

Influence of Saga Prefectural Qualifying Results for the National High School Baseball Championship

：Are private high schools qualifying grades better than public schools?

Koji Yamatsu (Faculty of Education, Saga University)

（*Received November 28th, 2022；accepted for publication January 31th, 2023*）

要旨

全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）における私立高等学校の躍進は目覚ましい。2022年8月に開催された第104回夏の甲子園大会に出場した49校のうち77.6％（38校）が私立であり、2008年以降の夏の甲子園優勝校はすべて私立であるなど、高校野球とりわけマスメディアからの注目度の高い夏の甲子園では私立の優勢は顕著である。一方、佐賀県では公立校が夏の甲子園大会で2度も優勝するなどその好成績が目立っている。佐賀県の夏の甲子園予選を分析対象とした先行研究では第94回から第103回までの10大会では私立が準優勝以上の成績をおさめる可能性は6. 86倍と有意に高く、佐賀県においても私立優勢の傾向が報告されているが、この傾向がいつ頃からみられるのか、分析対象大会を増やしても同様の傾向が認められるのかを明らかにする必要が残されている。そこで、本研究の目的は、夏の甲子園予選佐賀県大会における全45大会を分析対象とし公立校と比べて私立の成績は優勢なのか、またいつから優勢になったのかを検証することとした。分析対象は、第60回（1978年）から第104回（2022年）までの夏の甲子園予選佐賀大会の全45大会の試合成績であった。その結果、45大会全体では私立の優勝率などが公立よりやや高いもののいずれも有意差はなく、私立の成績が優れているとはいえなかった。一方で、45大会を15大会毎に区切り3期に分けて分析したところ、最初の15大会と続く15大会では全体の結果と同様に私立が公立より優勢との結果は認められなかったが、最後の15大会では私立の優勝可能性は公立に比べて12.8倍であった。最後の15大会では他に準優勝以上、ベスト4複数回進出も有意に高い（優れている）ことが示された。以上のことから、佐賀県における夏の甲子園予選の全大会を分析してみると私立優勢とはいえないことが示された。一方で、最近の大会のみに限定した場合は私立の優勢は有意に顕著であり、佐賀県の夏の甲子園予選での私立優勢は最近認められるようになった傾向であることが明らかとなった。

Key words: 高校野球，硬式野球，運動部活動，ベースボール，格差

Ⅰ. 研究の背景と目的

高校スポーツは特別に強化指定が行われている一部の公立校を除いて一般的には私立が運営する学校の部活動の成績優勢が顕著である。高校野球では2022年8月の第104回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）では、出場した49校のうち77.6%（38校）が私立であった。さらに夏の甲子園は2007年に佐賀県立佐賀北高校が公立高校として優勝して以来、その後はいずれも私立が優勝している。高校野球でマスメディアからの注目度も高い夏の甲子園大会においては私立の優勢は極めて顕著であるといえるだろう。

一方、佐賀県における高校野球は公立校の好成績が目立っている。佐賀県の公立校による顕著な成績としては、先述の2007年の佐賀北高校によってもたらされた全国優勝以外にも1994年の佐賀商業が優勝実績をもつことから、佐賀県の高校野球に関しては一般的に公立校が優勢との印象がもたれている。しかしながら、夏の甲子園佐賀県予選の第94回から第103回までの10大会の成績を分析した結果、意外にも私立が準優勝以上となる可能性が6.86倍高いことなどが報告されている（山津, 2022）。この報告は最近の大会のみを限定的に分析した結果であり、少子化の流れが強まる中、佐賀県においても私立の野球部強化の流れが強まっており、直近の大会のみの分析結果では夏の甲子園佐賀県予選において私立の成績が優勢であると結論づけるのは早計であるかもしれない。なぜなら、信頼できる結論を得るには利用可能なすべての大会の結果を用いて検証を進めるべきだからである。

そこで、本研究の目的は、佐賀県における夏の甲子園予選の第60回（1978年）から第104回（2022年）までの大会の成績を分析に用い、「私立の夏の甲子園予選の成績は公立校と比べて優勢であ

る」との仮説を最初に検証した。二つ目の分析の視点として、先行研究（山津, 2022）で報告された夏の甲子園予選での私立の成績優勢がいつから認められるのかを明らかにすることであった。

Ⅱ. 研究方法

2-1. 研究対象

研究対象とした大会は、第60回（1978年）から第104回（2022年）までの夏の甲子園佐賀県予選の45大会であった。研究対象を第60回大会からとしたのは、本大会より各県1校ずつ代表校が選出されるようになったからである。それ以前の大会では佐賀県と長崎県の中から代表校１校が選出されていたため、第60回大会以前の結果は今回の分析からは除外した。2020年は夏の甲子園大会が中止となり、佐賀県予選も行われなかった。そのため、2020年のみ代替大会として開催されたSAGA2020 SSP杯 佐賀県高等学校スポーツ大会の成績を用いた。

分析対象となった大会への出場校は付録に示した。各大会の出場校数は年度によって変動するが、最近の第104回大会の出場は36校（公立30校、私立6校）であり、過去最多出場校数は42校（1989年～1993年）であり、最少出場校数は36校（2022年）であった。私立は東明館が1987年に開講しそれまでの4校から5校に、早稲田佐賀が開校した2010年以降は6校となり現在に至っている。

佐賀県の公立校では数回の統合が実施されたため、次のように分析することとした。すなわち、単なる名称変更の場合（例えば、神埼農業が神埼清明と名称変更されたケースなど）は同一の高校とみなしデータを連結したこと、統合により消失した高等学校は消失前に関しては独立の高校として分析するが統合後は統合後の高等学校の成績として分析を行った（例えば、鹿島と2018年に統合

された鹿島実業は同校名で出場した大会までは独立の学校として鹿島とは別に分析するが、同校名での出場が認められなくなった時点でその後のデータはない状態となる、など）。

分析対象となった大会年度に行われた校名変更は7校（公立5校、私立2校）、複数の公立校の統合は6回、学校の新設は3校（公立1校、私立2校）であった。

単なる校名変更として同一の高等学校とみなしたのは7校（公立5校と私立2校）であった。すなわち公立5校は、1994年に佐賀農芸より校名変更された高志館、1996年に神埼農業より校名変更された神埼清明、1996年に唐津農業より校名変更された唐津南、2000年に嬉野商業より校名変更された嬉野、2002年に多久工業より校名変更された多久、であった。私立2校は、1995年に伊万里学園より校名変更された敬徳、2000年に佐賀中央工業より校名変更された北陵、であった。

公立の統合は6回であった。すなわち、2005年に東松浦と唐津北が統合し新たに唐津青翔が設置、2007年に武雄青陵と武雄（統合後は武雄高校として存続）、2018年に白石と杵島商業（統合後は白石高校として存続）、嬉野と塩田工業（統合後は嬉野高校として存続）、鹿島と鹿島実業（統合後は鹿島高校として存続）、2019年には伊万里農林と伊万里商業（統合後は伊万里実業が新たに設置）に統合された。統合された学校は、統合前は統合前の学校名で大会参加の場合は独立に分析、統合後は統合後の存続校の大会参加結果のみを分析対象とした（ただし、統合前の学校名で大会出場している場合は分析対象とした）。

学校の新設は、1987年の東明館（私立）、1988年の致遠館（公立）、2010年の早稲田佐賀（私立）の3校であった。新設された学校は新設年以降に参加が確認された大会から分析対象とした。

2-2. 研究データの収集方法

分析対象の夏の甲子園佐賀県予選の結果は高校野球の試合結果がデータベース化されているインターネット上のホームページ（高校野球データベース夏の地方大会編夏の佐賀大会全戦績、http://www.bibijr.com/saga/）および高校野球ドットコム（https://www.hb-nippon.com/）から情報を得た。高校野球データベースには第60回から第101回の記録が掲載されており、高校野球ドットコムには第88回から第104回の記録が掲載されていた。両ホームページの記載記録の信頼性を確認するために、重複している大会の記録を全て照合したが、完全に一致していたため上記ホームページの情報は信頼できると判断した。

2-3. 分析方法

分析に用いた変数は以下のように定義し用いた。すなわち、「優勝」は各大会の決勝戦で勝利した学校、「準優勝」は決勝戦で負けた学校、「ベスト4」は準決勝戦で負けた2校、「ベスト8」は準々決勝戦で負けた4校として集計を行った。また、「準優勝以上」は決勝戦に進出した2校、「ベスト4以上」は準決勝戦に進出した4校、「ベスト8以上」は準々決勝戦に進出した8校、と定義した。

まず、佐賀県の夏の甲子園予選で私立の方が公立より成績が良いのかという仮説を検証するために45大会を全体として分析を行った。次に、私立優勢の時期の影響を検証するために45大会を15大会ごとに3分割して第60回（1978年）から第74回（1992年）、第75回（1993年）から第89回（2007年）、第90回（2008年）から第104回（2022年）に分けて分析を行った。3分割とした理由は、先行研究（山津, 2022）における佐賀県夏の甲子園予選での私立優勢が第94回（2012年）から第103回

（2021年）までの大会で認められたことから、佐賀県における私立優勢がそれ以前の時期にも認められるかが確認できると考えられたからである。

用いた統計解析はχ^2検定とロジスティック回帰分析であり、有意水準は5%未満、有意傾向は10%未満とした。

Ⅲ. 結果

1）夏の甲子園予選佐賀大会の全45大会の主な集計結果

過去45大会における優勝回数の最多は佐賀商業（公立）の11回、続いて佐賀学園（私立）の6回、佐賀北（公立）の5回、龍谷（私立）の4回、唐津商業（公立）の3回、有田工業（公立）、鳥栖商業（公立）、鳥栖（公立）の各2回、優勝回数各1回は8校（東明館、早稲田佐賀［以上、私学］、佐賀工業、唐津西、唐津工業、小城、神埼、伊万里農林［以上、公立］）であった。統合により2022年11月時点で存在しない公立校の優勝は伊万里農林のみであった。

準優勝は公立が17校（43.6%）、私立が4校（66.7%）であった。準優勝回数の最多は佐賀商業（公立）の6回、佐賀学園（私立）と鳥栖（公立）の各5回、唐津商業（公立）の4回、佐賀北（公立）と佐賀工業（公立）の各3回、鳥栖商業（公立）と佐賀西（公立）と敬徳（私立）が各2回、準優勝1回の学校は12校（龍谷、早稲田佐賀［以上、私立］、有田工業、唐津西、唐津工業、小城、神埼清明、鹿島、鹿島実業、唐津東、杵島商業、伊万里商業［以上、公立］であった。

ベスト4進出は公立が25校（64.1%）、私立が5校（83.3%）であった。ベスト4進出回数の最多は龍谷（私立）の10回、鳥栖（公立）と唐津商業（公立）と鹿島実業（公立）と佐賀学園（私立）

の各6回、佐賀西（公立）の5回、佐賀商業（公立）と有田工業（公立）の各4回、ベスト4進出3回は7校（佐賀北、佐賀工業、唐津西、小城、佐賀東、伊万里、鳥栖工業［以上、すべて公立］）、ベスト4進出2回は5校（鳥栖商業、杵島商業、多久、厳木［以上、公立］、東明館［私立］）、ベスト4進出1回は10校（唐津工業、神埼清明、鹿島、唐津東、伊万里商業、神埼、伊万里農林、太良［以上、公立］、敬徳、早稲田佐賀［以上、私立］であった。

ベスト8進出は公立が34校（87.2%）、私立が5校（83.3%）であった。ベスト8進出回数の最多は佐賀学園（私立）の10回、続いて佐賀北（公立）の9回、ベスト8進出8回は4校（伊万里、鳥栖工業、鹿島［以上、公立］、敬徳［私立］）、ベスト8進出7回は4校（佐賀西、唐津東、神崎［以上、公立］、龍谷［私立］）、ベスト8進出6回は3校（佐賀商業、三養基［以上、公立］、北稜［私立］）、ベスト8進出5回は4校（唐津商業、鹿島実業、佐賀工業、唐津西［以上、すべて公立］）、ベスト8進出4回は6校（鳥栖、厳木、唐津工業、神埼清明、伊万里商業、致遠館［以上、すべて公立］）、ベスト8進出3回は4校（鳥栖商業、杵島商業、白石、武雄［以上、すべて公立］）、ベスト8進出2回は8校（有田工業、小城、佐賀東、多久、伊万里農林、嬉野、高志館、唐津南［以上、すべて公立］）、ベスト8進出1回は4校（太良、武雄青陵、東松浦［以上、公立］、佐賀早稲田［私立］）であった。

2）夏の甲子園予選佐賀大会の全大会を対象とした分析の結果（表1、表2）

χ^2検定とロジスティック回帰分析を用いて分析対象となった45大会の試合成績を検証した結果は次の通りであった。45大会の優勝経験のある学校は公立が13校（公立全体の33.3%）、私立が4

校（私立全体の66.7%）であった。優勝成績の割合（優勝率）をχ^2検定（表１）、ロジスティック回帰分析（表２）にて検証した結果、私立の優勝率と優勝オッズ比は有意ではなかった。

上記以外に、準優勝率、ベスト4進出率、ベスト8進出率、準優勝以上進出率、ベスト4以上進出率など13指標を同様に分析した結果はいずれも有意ではなかった。このことから、過去の全45大会における私立の優勝率や準優勝率は公立よりやや高いものの有意ではなく、私立が夏の甲子園佐賀県予選で公立を上回る成績をあげているとはいえないことが示された。

3）15大会ごとに3分割した場合の分析結果（表3、表4）

χ^2検定を行った結果、最初の15大会（第60回から第74回）において有意差が認められた項目はなかった。しかし、優勝複数回率（公立2.6%、私立20.0%）、準優勝複数回率（公立2.6%、私立20.0%）、ベスト8複数回率（公立38.5%、私立80.0%）に有意傾向が認められた。次の15大会（第75回から第89回）では有意差および有意傾向いずれも認められなかった。最後の15大会（第90回から第104回）では優勝率（公立13.5%、私立66.7%）、ベスト4進出率（公立35.1%、私立83.3%）、準優勝以上進出率（公立21.6%、私立83.3%）、ベスト4以上進出率（公立37.8%、私立83.3%）、ベスト4複数回率（公立8.1%、私立50.0%）において有意差が認められ、いずれも私立の成績が公立より優れていた。

仮説の検証自体はすでに前述のχ^2検定にて実施済みではあるものの関連性の大きさを可視化するために、同様の解析をロジスティック回帰分析で検討した。その結果、最初の15大会、次の15大会ではいずれも有意ではなく、最後の15大会でのみ優勝（オッズ比12.8、95%信頼区間1.84-89.2）、

準優勝以上（オッズ比18.1、95%信頼区間1.84-178.1）、ベスト4複数回進出（オッズ比11.3、95%信頼区間1.55-82.8）にて有意であった。

以上の結果から、最初の15大会（第60回から第74回）と続く15大会（第75回から第89回）では私立優勢とは言えないが、最近の15大会（第90回から第104回）では私立の優勝、準優勝以上、ベスト4複数回進出は公立より優れており、夏の甲子園佐賀県予選における私立優勢は最近認められるようになった傾向であることが明らかとなった。

Ⅳ. 考察

本研究では、夏の甲子園佐賀県予選の利用可能な全大会を分析対象とし、夏の甲子園佐賀県予選の成績は公立に比べて私立が優勢であるとの仮説を検証した。その結果、表1に示したように、第60回から第104回大会までの全体の分析では、私立の優勝率、準優勝率、ベスト4進出率など公立と比べてやや高いもののいずれも有意差を認めず、夏の甲子園佐賀県予選の今までの全大会では必ずしも私立優勢とは言えないことが示された。表2においてロジスティック回帰分析を用いた検討でも同様の結果であった。

次に、先行研究（山津，2022）で報告されている夏の甲子園佐賀県予選における私立優勢の傾向がどの時期から認められるのかを検証するために、全45大会を3分割し15大会ごとに区切って分析した結果、興味深い結果が明らかとなった。すなわち、最初の15大会（第60回から第74回）およびその次の15大会（第75回から第89回）では全体の結果と同様に私立優勢といえるものではなかったが、最近の15大会（第90回から第104回）では私立の優勝可能性は12.8倍、準優勝以上への進出可

能性は18.1倍、ベスト4複数回進出は11.3倍と有意に高く優れており、佐賀県における夏の甲子園予選における私立優勢の傾向は最近認められるようになったことが示された。

佐賀県においては前述のように過去に公立校が夏の甲子園全国大会にて2度の全国制覇を達成するという快挙を成し遂げており、佐賀県民の多くは佐賀県高校野球で公立校が健闘しているとの印象をもっていると思われる。本研究における全45大会を分析した結果、公立と私立の夏の甲子園予選の成績に有意差は認められなかったことから「私立の夏の甲子園予選の成績は公立校と比べて優勢である」との仮説は支持されなかった。一方で、最近15大会は明らかに私立の成績が優れており、他県での夏の甲子園予選や全国大会でも認められる私立の野球部優勢の流れは佐賀県においても認められることが確認された。以上の結果から、私立の夏の甲子園予選の成績は公立校と比べて優勢であるとは言えないが、佐賀県における夏の甲子園予選は最近では私立が優勢となっている現状が示されたといえよう。

本研究では夏の甲子園佐賀県予選で利用可能な全大会を用いて私立の成績が公立より優勢であるかという仮説を、佐賀県という限定的な対象地域ながらも客観的な分析を通じて裏付けできた初の試みである。高校野球の勝敗に影響する要因を検討した先行研究としては、先行と後攻に着目した報告（川村・中村，2007）、先制点に着目した報告（雑賀，2010；雑賀，2011）、投手力・打撃力・守備力に着目した報告（末木，2017）、などが挙げられるが、本研究のようにスポーツ疫学の視点で分析しかつ公立と私立のチーム成績の違いに着目した報告はないため独自性の高い研究だと考えている。一方で、本研究には次のような研究上の課題があるため、その解釈には慎重にならざるをえない。

第一に、公立校の統合などによりチーム数が年度ごとに変動する影響を除外できているのかを確認する必要がある。研究対象期間中の初期の公立校の統合は夏の甲子園佐賀県予選での実績が比較的乏しい学校であったため結果への影響は限定的であると考えられるが、近年の統合では優勝やベスト4に進出実績のある学校の統合によるチーム数の減少がみられており、最近の私立優勢の結果を過大評価させるように影響した可能性は否定できない。

次に、高校入試における野球の特待制度や推薦制度に関しても交絡因子として検討していく必要がある。公立校における野球の推薦入試は2021年度時点で26校が導入し、4人から6人の新入生を獲得できるようになっている（佐賀県教育委員会，2021）。野球の実力も加味されて進学したいと考える中学生にとっては望ましい制度改正であるが、受入側の高校側にとっては問題も少なくない（稲岡，2009）。

最後に、本研究で認められた最近における夏の甲子園佐賀県予選における私立優勢の真の理由が不明のまま残されている。私立の方がより優れた特待生を集めることができているからなのか、施設面で優れているからなのか、優れたトレーニングや練習方法を実践しているからなのか、などの想定される理由が複合的に影響していると考えられるため、今後の重要な検討課題であろう。

Ⅴ．結論

本研究では、夏の甲子園佐賀県予選の全大会を分析した結果、今までの全大会では私立の成績が優れているとはいえないものの、最近15大会に限定すると私立の優勝率や準優勝以上となる可能性は公立に比べて有意に高く、私立優勢の傾向は最近認められるようになったことが示された。

Ⅵ. 引用文献

1. 山津幸司，2022，高等学校の運営主体が全国高等学校野球選手権大会の予選成績に及ぼす影響 ：佐賀県における私立の高等学校は公立校より夏の甲子園大会に出場しやすいのか？，九州地区国立大学教育系・文系研究論文集，9 巻 1 号，論文番号 No.2，1-13.

2. 高校野球データベース，夏の地方大会編夏の佐賀大会全戦績，http://www.bibijr.com/saga/（2022 年 11 月 25 日時点でアクセス可能）

3. 高校野球ドットコム、https://www.hb-nippon.com/（2022 年 11 月 25 日時点でアクセス可能）

4. 川村卓，中村計，2007，徹底データ分析甲子園戦法：セオリーのウソとホント，朝日新聞社.

5. 雑賀亮一，2010，高校野球の地方大会における先制点の考察，太成学院大学紀要，12 巻，127-138 頁.

6. 雑賀亮一，2011，第 92 回全国高等学校野球選手権大会における先制点の考察，太成学院大学紀要，13 巻，157-163 頁.

7. 松末新，2017，高校野球における試合の勝敗に影響を与える要因：投手力・打撃力・守備力の比較，体育学研究，62 巻，289-295 頁.

8. 佐賀県教育委員会，2021，令和 4 年度佐賀県立高等学校入学者選抜実施要項、https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/kiji00376513/3_76513_215051_up_gm0y7ask.pdf（2022 年 11 月 25 日時点でアクセス可能）

9. 佐賀県教育委員会，2021，令和 4 年度佐賀県立高等学校入学者選抜 特別選抜の指定校について、https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/kiji00376513/3_76513_214990_up_7rbsccma.pdf

（2022 年 11 月 25 日時点でアクセス可能）

10. 稲岡大志，2009，特待生問題とはいかなる問題なのか：スポーツ倫理学の観点から，21 世紀倫理創成研究，2 巻，99-114 頁.

表１．夏の甲子園予選佐賀大会における全45大会の公立と私立の結果の比較

	公立校 （39校）	私立校 （6校）	X^2検定
優勝率（%）	33.3	66.7	0.117
準優勝率（%）	43.6	66.7	0.292
ベスト４進出率（%）	64.1	83.3	0.352
ベスト８進出率（%）	87.2	83.3	0.796
準優勝以上進出率（%）	51.3	83.3	0.141
ベスト４以上進出率（%）	64.1	83.3	0.352
ベスト８以上進出率（%）	87.2	100.0	0.352
優勝複数回率（%）	17.9	33.3	0.380
準優勝複数回率（%）	17.9	33.3	0.380
ベスト４複数回率（%）	43.6	50.0	0.769
ベスト８複数回率（%）	79.5	66.7	0.482
準優勝以上複数回率（%）	17.9	33.3	0.380
ベスト４以上複数回率（%）	43.6	50.0	0.769
ベスト８以上複数回率（%）	79.5	83.3	0.826

表２．夏の甲子園予選佐賀大会における全45大会の公立と私立の結果の比較

	オッズ比$	95%信頼区間	P値
優勝	4.00	0.65-24.8	0.136
準優勝	2.59	0.42-15.8	0.304
ベスト４進出	2.8	0.30-26.4	0.369
ベスト８進出	0.74	0.07-7.66	0.797
準優勝以上	4.75	0.51-44.5	0.172
ベスト４以上進出	2.80	0.30-26.4	0.369
ベスト８以上進出	私立のベスト8進出実績は100%のため算出できず		
優勝複数回	2.29	0.35-15.0	0.390
準優勝複数回	2.29	0.35-15.0	0.390
ベスト４複数回	1.29	0.23-7.23	0.769
ベスト８複数回	0.52	0.08-3.34	0.487
準優勝以上複数回	2.29	0.35-15.0	0.390
ベスト４以上複数回	1.29	0.23-7.23	0.769
ベスト８以上複数回	1.29	0.13-12.7	0.827

$公立高等学校を参照とした場合のオッズ比

表３．夏の甲子園予選佐賀大会における15大会毎の公立と私立の結果の比較（χ^2検定）

	第60回～第74回（1978～1992年）				第75回～第89回（1993～2007年）				第90回～第104回（2008～2022年）			
	公立校（39校）	私立校[a]（5校）	X^2検定		公立校（39校）	私立校[a]（5校）	X^2検定		公立校[b]（37校）	私立校（6校）	X^2検定	
優勝率（%）	17.9	40.0	0.250		18.9	40.0	0.250		13.5	66.7	0.003	*
準優勝率（%）	23.1	40.0	0.411		25.6	40.0	0.497		16.2	33.3	0.318	
ベスト４進出率（%）	33.3	40.0	0.767		43.6	40.0	0.879		35.1	83.3	0.026	*
ベスト８進出率（%）	59.0	80.0	0.363		61.5	80.0	0.419		56.8	83.3	0.217	
準優勝以上進出率（%）	28.2	40.0	0.586		33.3	60.0	0.243		21.6	83.3	0.002	*
ベスト４以上進出率（%）	38.5	40.0	0.947		51.3	60.0	0.713		37.8	83.3	0.037	*
ベスト８以上進出率（%）	64.1	80.0	0.480		76.9	80.0	0.877		64.9	100.0	0.082	#
優勝複数回率（%）	2.6	20.0	0.078	#	7.7	20.0	0.367		10.8	16.7	0.678	
準優勝複数回率（%）	2.6	20.0	0.078	#	7.7	0.0	0.521		10.8	0.0	0.398	
ベスト４複数回率（%）	17.9	20.0	0.911		17.9	40.0	0.250		8.1	50.0	0.006	*
ベスト８複数回率（%）	38.5	80.0	0.077	#	38.5	60.0	0.356		35.1	50.0	0.485	
準優勝以上複数回率（%）	5.1	20.0	0.214		10.3	20.0	0.518		16.2	16.7	0.978	
ベスト４以上複数回率（%）	20.5	40.0	0.328		25.6	40.0	0.497		16.2	50.0	0.059	#
ベスト８以上複数回率（%）	43.6	80.0	0.125		51.3	60.0	0.713		40.5	66.7	0.232	

[a] 私立の2010年開校の早稲田佐賀は分析から除外　[b] 公立の東松浦と唐津北は2002年統合消滅のため分析から除外　* P<0.05　# P<0.10

表４．夏の甲子園予選佐賀大会における15大会毎の公立と私立の結果の比較（ロジスティック回帰分析）

	第60回～第74回[a]（1978～1992年）			第75回～第89回[a]（1993～2007年）			第90回～第104回[b]（2008～2022年）			
	オッズ比[$]	95%信頼区間	P値	オッズ比[$]	95%信頼区間	P値	オッズ比[$]	95%信頼区間	P値	
優勝	3.05	0.43-21.8	0.267	3.05	0.43-21.8	0.267	12.8	1.84-89.2	0.010	*
準優勝	2.22	0.32-15.4	0.419	1.93	0.28-13.3	0.503	2.58	0.38-17.4	0.330	
ベスト４進出	1.33	0.20-9.00	0.768	0.86	0.13-5.76	0.879	9.23	0.97-87.6	0.053	#
ベスト８進出	2.78	0.28-27.3	0.379	2.50	0.25-24.5	0.432	3.81	0.40-35.9	0.243	
準優勝以上	1.70	0.25-11.6	0.589	3.00	0.44-20.2	0.259	18.1	1.84-178.1	0.013	*
ベスト４以上進出	1.07	0.16-7.15	0.947	1.43	0.21-9.49	0.714	8.21	0.87-77.7	0.066	#
ベスト８以上進出	2.24	0.23-22.1	0.489	1.20	0.12-12.1	0.877	私立のベスト8以上進出は100%のため算出できず			
優勝複数回	9.50	0.49-182.8	0.136	3.00	0.25-36.1	0.387	1.65	0.15-17.9	0.681	
準優勝複数回進出	9.50	0.49-182.8	0.136	私立の準優勝複数回は0%のため算出できず			私立の準優勝複数回は0%のため算出できず			
ベスト４複数回進出	1.14	0.11-11.9	0.911	3.05	0.43-21.8	0.267	11.3	1.55-82.8	0.017	*
ベスト８複数回進出	6.40	0.65-62.8	0.111	3.00	0.44-20.2	0.259	1.85	0.33-10.5	0.489	
準優勝以上複数回進出	4.63	0.34-63.1	0.251	1.38	0.13-14.5	0.791	1.03	0.10-10.5	0.978	
ベスト４以上複数回進出	2.58	0.37-18.2	0.340	1.93	0.28-13.3	0.503	5.17	0.83-32.0	0.078	#
ベスト８以上複数回進出	5.18	0.53-50.7	0.158	1.43	0.21-9.49	0.714	2.93	0.48-18.1	0.246	

$公立高等学校を参照とした場合のオッズ比

[a] 私立の2010年開校の早稲田佐賀は分析から除外　　[b] 公立の東松浦と唐津北は2002年統合消滅のため分析から除外　　* P<0.05　# P<0.10

付録

No.	高校名	運営主体	地区
1	伊万里	公立	伊西地区
2	有田工	公立	伊西地区
3	伊万里実業（2019年に伊万里農林、伊万里商業と統合）	公立	伊西地区
4	唐津商	公立	唐松地区
5	唐津西	公立	唐松地区
6	唐津工	公立	唐松地区
7	小城	公立	唐松地区
8	多久（2002年に多久工業より校名改称）	公立	唐松地区
9	厳木	公立	唐松地区
10	唐津南（1996年に唐津農業より校名改称）	公立	唐松地区
11	唐津東	公立	唐松地区
12	唐津青翔（東松浦と唐津北の統合により2005年設置）	公立	唐松地区
13	白石（2018年に杵島商業と統合）	公立	杵藤地区
14	嬉野（2000年に嬉野商業より校名改称、2018年に塩田工業と統合）	公立	杵藤地区
15	武雄（2007年に武雄青陵と統合）	公立	杵藤地区
16	鹿島（2018年に鹿島実業と統合）	公立	杵藤地区
17	太良	公立	杵藤地区
18	佐賀農	公立	杵藤地区
19	佐賀北	公立	佐賀地区
20	佐賀商業	公立	佐賀地区
21	佐賀工	公立	佐賀地区
22	致遠館（1988年開校）	公立	佐賀地区
23	高志館（1994年に佐賀農芸より校名改称）	公立	佐賀地区
24	佐賀西	公立	佐賀地区
25	佐賀東	公立	佐賀地区
26	神埼清明（1996年に神埼農業より校名改称）	公立	三神地区
27	三養基	公立	三神地区
28	鳥栖工	公立	三神地区
29	鳥栖商	公立	三神地区
30	神埼	公立	三神地区
31	鳥栖	公立	三神地区
32	敬徳（1995年に伊万里学園より校名改称）	私立	伊西地区
33	龍谷	私立	佐賀地区
34	佐賀学園	私立	佐賀地区
35	北陵（2000年に佐賀中央工業より校名改称）	私立	佐賀地区
36	早稲田佐賀（2010年開校）	私立	唐松地区
37	東明館（1987年開校）	私立	三神地区
（分析対象となったものの統合後に消失した学校）			
38	伊万里農林（2019年に伊万里商業と統合となり伊万里実業へ）	公立	伊西地区
39	伊万里商業（2019年に伊万里農林と統合となり伊万里実業へ）	公立	伊西地区
40	唐津北（2002年に東松浦と統廃合、2005年唐津青翔設置）	公立	唐松地区
41	鹿島実業（2018年に鹿島へ統合）	公立	杵藤地区
42	杵島商業（2018年に白石へ統合）	公立	杵藤地区
43	塩田工業（2018年に嬉野へ統合）	公立	杵藤地区
44	武雄青陵（2007年に武雄へ統合）	公立	杵藤地区
45	東松浦（2002年に唐津北と統廃合、2005年唐津青翔設置）	公立	杵藤地区